

前偕行編集委員長

佐藤正さんを偲んで

柴田 幹雄 陸自75

『偕行』編集委員長の佐藤正さんが令和7年2月3日逝去されました。訃報を受けた時、ショックで言葉もありませんでした。心の片隅にはやはりそうだったかという思いもありました。

佐藤さんは私が偕行社編集委員長の時、6年間ほどその補佐をしてくださいました。補佐とは言いながら実際の編集実務を全てやってくれており、本当に助かりました。彼が来るまではページの割付など鉛筆で「書いては消し」をしていましたが、パソコン活用による効率化を図ってくれました。偕行社の財政上の理由から編綴を変えたり、月刊から隔月発行にするなどありましたが、偕行社が陸修偕行社へ脱皮する苦難の中『偕行』の灯を消さずに守ってこれたのも佐藤さんとの二人三脚で走り続けたおかげと思っています。

佐藤さんは私より3期若いのですがCGS同期で、個人的にも親しく

していたので編集補佐として佐藤さんが来てくれて本当にうれしく思いました。

彼は旭川出身、防大22期（陸自78）、高身長でスタイルもよく、明るく温厚な中にも一本筋が通っており、私から見るといくつになっても好青年といった風情でした。ちよつと意外？でしたが防大校友会（クラブ活動）は相撲部で、顧問の兼坂先生との交流も続けていて、最近も兼坂先生の満洲時代の話などを記事にしてみらっていました。

一方、文化部では防大の美術部にも入っていたとことで、偕行アーククラブのメンバーでもありました。ここでも幹事として会計や事務手続きなど引き受けていました。昨年の偕行アーククラブ・フォトクラブ合同展には「いつものワイキキビーチ」という題で油絵を出展されました。家族そろってのハワイ旅行での楽しさがあふれ出ているような作品で、その明るい色調は極めて印象的でした。

また彼の多才ぶりですが、若い時からギターを楽しんでいたとのこと、これまた私が参加している軽音楽の集りにも最近加入してくれまし

た。その集りはピアノ、ギター、ボーカルなどほぼ同年代が集まり、私はトランペット、佐藤さんはベースギターでした。ベースギターが入り、音楽が締まる感じだといへん良かったです。

佐藤さんは人脈も豊富で、各種の一杯会には先輩である私にも声をかけてくれ、彼が居る席は和やかで、本当に楽しく飲めたものでした。佐藤さんとは『偕行』編集のみならずいろいろなところで接点があり、後輩ではありましたが、しっかりした論理的思考と人生哲学の持ち主でしたから私も何かと相談をし、アドバイスをもらうことも多かったのです。本当に信頼できる友人でした。

私は昨年3月に編集委員長を辞して佐藤さんに申し送りました。編集補佐に富樫さんが来てくれ順調に編集は進んでいました。

昨年11月、佐藤さんから体調が悪く年明けに入院するということで、その前に会おうと思ひ12月に偕行社を訪問しました。少しやせた感じはありましたが元気でした。その時佐藤さんから、偕行アーククラブの口座通帳や出納簿、印鑑を申し受け、また年内に編集委員長も下番し

同期生の井上武さんが急遽就任することであり、すべてを申し送って入院するというので、少し心配でしたが、後から考えると佐藤さんらしい対処だと思いました。その日も一緒に陸修偕行社を出て、さりげない世間話をしながら市ヶ谷駅まで歩き、そこでいつもどおり別れました。別れ際に何か言わないか、と思つたが深刻なことは言えず、「じゃあ頑張つてね」とだけ言つて別れました。

その後1月に入院され、メールでの連絡があり、一度家に帰り病状により入院になるようでした。落ち着いたら見舞いに行けばいいなと思つていましたが、2月3日に逝去されたとのことでした。

佐藤さんは普通科職種で米子の第8普通科連隊長なども歴任し、朝霞の輸送学校長を最後に退官、身体強健、文武両道の好男子でした。ご自宅も近く、年をとっても飲み友達で付き合える友人だと思つていました。が、なんと早く逝つてしまったのか、まことに得難い友人を失いました。

ご冥福を祈るばかりです。